

## 海外インターンシッププログラム

派遣国・都市名	アメリカ・ワシントン州シアトル市
研修先	兵庫県ワシントン州事務所
プログラム実習期間	2013年8月12日～8月30日
学部/研究科・学年	文学部 4年

### インターンシップ就業実習 報告書

私は、兵庫県ワシントン州事務所でのインターン生として、主にワシントン州と兵庫県の姉妹都市提携50周年の記念行事に携わりました。

はじめに、兵庫県知事やワシントン州上院議員なども観覧された淡路人形浄瑠璃公演での案内係を勤めました。会場前にブースを設置し、兵庫県のPRも行いました。

メインイベントの姉妹提携50周年記念式典はワシントン州議事堂にて行われ、私達は兵庫県からの高校生団と共に、双方の知事が姉妹都市提携の調印を行った様子を拝見しました。私の主な業務は、高校生団の通訳補助と交流を深めることでした。高校生団は皆海外留学や異文化交流に興味があり、私の留学経験についても興味津々でした。海外留学に対する不満を抱えている生徒には、イギリス留学や今回のインターンシップの経験を元にアドバイスをしました。

兵庫県の高中生団とは、彼らがルーズベルト高校を訪問する際にも一緒に行動しました。クイズを解きながら街中を散策するスカベンジャーハントというゲームでは、高校生の女の子のチームに同行しました。その際、高校生の英語力の向上や自主性を育てるために、通訳の手助けをしすぎないように全体のサポートをしていました。

兵庫県物産展においては兵庫県の名産品をワシントン州の知事団の方々に紹介するパネルを作成しました。パネル作成には、二つの行程がありました。まず、兵庫県の名産品の公式ホームページなどから得た情報を英訳し、名産品の英文紹介文を作成しました。そして、その英文紹介文に彩りや見やすさを考えながら和紙で飾り付けをしました。英文紹介文を書く際に苦労したのは、日本人にとって有益な情報が、必ずしもアメリカ人にとっても魅力的であるとは限らないという点です。例えば、「血液がさらさらになる」という売り文句は、健康を気にする日本人にとっては興味がそそられる内容です。しかし、アメリカ人の上司からは「アメリカ人には、そもそも血液がどろどろであるという認識がないから、この表現には違和感がある。」と言われました。だから、その商品には、「血液がさらさらになる」というアピールポイントの他に、「高血圧に効く」とあったのでそちらを取り上げることにしました。アメリカ人の30パーセントが高血圧であり、それが原因で亡くなってしまう人も多いというアメリカの抱える問題を上司から聞いたからです。このように、英文紹介文を作る際には、単に日本語を英訳するのではなく、アメリカの今置かれている現状を把握し、人々のニーズに合った情報を提供するよう心掛けました。兵庫県物産展には参加できませんでしたが、物産展の様子を後で聞いたところ、私の作成したパネルを読んで商品に興味を持ってくださった方もいたということでした。

関西セミナーでは、来場されたVIPの方々の受付をし、席にご案内しました。名札のチェック

をしている際に不備が多々見付き、手書きで名札を書き換えました。お客様がご来場される前にすべて訂正することができたので、お客様をスムーズにご案内することができました。セミナーでは、コストコの創業者や、関西の観光 PR のプレゼンテーションを拝見し、ワシントン州や関西について見識を深めることができました。

兵庫県議会議員団の方々が事務所を訪問された際には、議員団の方々の前で事務所についてのプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションをしている最中にパワーポイントが映らなくなってしまうハプニングがありましたが、覚えていた事務所の事業内容について説明させていただきました。トラブルに対しても、焦らず臨機応変に対応することができました。また、今回のインターンシップに参加した理由と実際の業務内容、この経験を将来にどう活かしたいかということもお話させていただきました。海外事務所の必要性の可否が問われる中で、私達が事務所での体験談を話したことは、議員団の方々に海外事務所に対する前向きな考え方を持っていただくきっかけになりました。

50周年記念行事の最後のイベントとして、英語落語家の桂三輝の落語の公演の準備を行いました。準備の一環として、公演で使用する屏風をベインブリッジアイランドまで取りに行きました。イベント当日は、受付とビデオ撮影を担当しました。今までビデオカメラでの撮影の経験はあまりありませんでしたが、長時間カメラを持ち続けることは集中力と体力が必要なのだと知りました。

3週間という短い期間でしたが、留学で培った英語をビジネスの場で活かしたいというかねてからの希望が叶い、そこで現実を知り己の無力さを痛感させられました。今回感じた悔しさをバネに、さらなる英語のスキルアップを目指してこれからも頑張っていきます。

## 感想および意見

今回のインターンシップを通して、私自身や兵庫県、日本について見つめ直すことができました。さらに、日本とアメリカの違いを知り、私が日本人として日本ですべきことが明白になったと思います。

人形浄瑠璃は日本の伝統芸術であるにも関わらず、私は今まで一度も観たことがなく今回のインターンシップを通してシアトルで初めて観覧しました。公演終了後、このような日本の素晴らしい伝統芸術を今まで知らなかったことはもったいないことだったと思いました。だから、自分の住んでいる地域のことや日本について、もっと知るよう努力しなければならないと感じました。私は、海外に行くことが好きでよく訪れています。そういう人間が自国の文化について把握していないことは恥ずかしいことだと思います。これからは、日本に関する知識や経験をより多く身につけ、海外で日本について自分から発信していけるようになりたいと思います。また、公演中語りは日本語でしたが、人形の生きているようなたち振る舞いは日本語がわからない観客も楽しませていました。芸術は国境を越えて、多くの人々に楽しんでもらえるものだということがよくわかりました。

姉妹提携 50 周年記念式典への参加を通して、異文化交流の重要性とそれを維持していく必要性を実感しました。50 年という兵庫県の中で一番長い姉妹都市関係の構築を祝福する式典は、多くの現地のボランティアの方々のお力添えがあったからこそ成功することができました。この点に関して、日本では市民の異文化交流に対する意識は、アメリカよりも低いと言

われています。日本では、ボランティアを募って式典を開催することは難しいとされているので、それは改善していくべきだと思ったので、日本で少しでも多くの方々に今回の経験を伝え、国際交流の重要性に対する理解を促していきたいです。私の発言が、兵庫県議員団の方々の考えを変えていただくきっかけとなったように、伝えることで変えられることもあると思います。私は、今回の経験を自分だけのものに止めず、積極的に周りの人々と共有していきたいです。

今回のインターンシップの経験は、私にとって貴重な財産となりました。50年という節目を祝う一生に一度しかない機会にあの場にいることができ、少しでも貢献できたことを嬉しく思います。このような機会を提供していただき、大変感謝しております。ありがとうございました。